

第162回 日商簿記検定試験 1級 一工業簿記一 **解説**

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 伝統的原価計算（部門別計算）と活動基準原価計算

伝統的原価計算（部門別計算）の場合

1. 製品データの推定

	製品X	製品Y	合計
直接作業時間			
A製造部門	3,600 時間	150 時間	3,750 時間
B製造部門	1,800 時間	250 時間	2,050 時間
直接材料費	38,400 千円	1,000 千円	39,400 千円
直接労務費			
A製造部門	4,680 千円	195 千円	4,875 千円
B製造部門	2,088 千円	290 千円	2,378 千円
製造直接費合計	45,168 千円	1,485 千円	46,653 千円

⇒ 問3の解答

(*) 直接作業時間

A製造部門 製品X : 6,000 個×0.6 時間=3,600 時間
 製品Y : 500 個×0.3 時間= 150 時間
 B製造部門 製品X : 6,000 個×0.3 時間=1,800 時間
 製品Y : 500 個×0.5 時間= 250 時間

(*) 直接材料費 製品X : 6,000 個×6,400 円=38,400 千円
 製品Y : 500 個×2,000 円= 1,000 千円

(*) 直接労務費

A製造部門 4,875 千円 × $\begin{cases} \text{製品X } 3,600 \text{ 時間} \rightarrow 4,680 \text{ 千円} \\ \text{製品Y } 150 \text{ 時間} \rightarrow 195 \text{ 千円} \end{cases}$
 B製造部門 2,378 千円 × $\begin{cases} \text{製品X } 1,800 \text{ 時間} \rightarrow 2,088 \text{ 千円} \\ \text{製品Y } 250 \text{ 時間} \rightarrow 290 \text{ 千円} \end{cases}$

2. 補助部門費の配賦（単位：千円）

	A製造部門	B製造部門	材料倉庫部	生産技術部	工場管理部
製造間接費	1,276.8	1,220.2	1,856	1,740	1,160
補助部門費	3,075	1,681			
合計額	4,351.8	2,901.2			

⇒ 問1の解答

(*) 補助部門費合計を、直接作業時間を基準に配賦

補助部門費合計 4,756 円/時間 × $\begin{cases} \text{A製造部門 } 3,750 \text{ 時間} \rightarrow 3,075 \text{ 千円} \\ \text{B製造部門 } 2,050 \text{ 時間} \rightarrow 1,681 \text{ 千円} \end{cases}$

3. 製品原価の算定

	製品X	製品Y	合計
直接材料費	38,400 千円	1,000 千円	39,400 千円
直接労務費			
A製造部門	4,680 千円	195 千円	4,875 千円
B製造部門	2,088 千円	290 千円	2,378 千円
製造間接費			
A製造部門	6,725.123 千円	527.877 千円	7,253 千円
B製造部門			
製造原価合計	51,893.123 千円	2,012.877 千円	53,906 千円
単位当たり製造原価	8,649 円/個	4,026 円/個	—

⇒ 問2の解答

⇒ 問4の解答

(*) 製造間接費

$$A \text{ 製造部門 } \quad 4,351.8 \text{ 千円} \quad \times \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{製品X } 4,680 \text{ 千円} \rightarrow 4,177.7279 \dots \text{千円} \\ \text{製品Y } 195 \text{ 千円} \rightarrow 174.0719 \dots \text{千円} \end{array} \right.$$

$$B \text{ 製造部門 } \quad 2,901.2 \text{ 千円} \quad \times \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{製品X } 2,088 \text{ 千円} \rightarrow 2,543.3951 \dots \text{千円} \\ \text{製品Y } 290 \text{ 千円} \rightarrow 353.8048 \dots \text{千円} \end{array} \right.$$

活動基準原価計算の場合

1. 活動基準原価計算による製造間接費の配賦

	合計	製品X	製品Y
機械作業活動	1,803 千円	1,253 千円	550 千円
段取活動	1,040 千円	640 千円	400 千円
工程改善活動	1,400 千円	840 千円	560 千円
購入部品の発注・検収活動	970 千円	710 千円	260 千円
材料の払出・運搬活動	880 千円	520 千円	360 千円
管理活動	1,160 千円	1,080 千円	80 千円
配賦額合計	7,253 千円	5,043 千円	2,210 千円

⇒ 問5の解答

(*) コスト・プールの金額を、コスト・ドライバーを用いて配賦する。なお、製品別の直接作業時間の合計は、部門別計算の際に製品X：5,400時間、製品Y：400時間と求めた数値を用いる。

2. 製品原価の算定

	製品X	製品Y	合計
直接材料費	38,400 千円	1,000 千円	39,400 千円
直接労務費	6,768 千円	485 千円	7,253 千円
製造間接費	5,043 千円	2,210 千円	7,253 千円
製造原価合計	50,211 千円	3,695 千円	53,906 千円
単位当たり製造原価	8,369 円/個	7,390 円/個	—

} 問3と同じ

⇒ 問6の解答